

令和5年度 本市の達成目標について(ひらつかエコモード)

令和5年度は、中間見直し後の地球温暖化対策実行計画(事務事業編)や、省エネ法の努力義務に留意し、市役所のエネルギー使用量及び二酸化炭素排出量について「数値目標」を設定し、全体としての達成を目指しました。

また、各課固有の業務に改めて着目し、その中で取組み可能な環境配慮行動を行うよう努めました。

【数値設定目標】

(1) 電気使用量の削減

目標	部ごとに令和4年度比 1.0%減	目標達成 ×
結果	部ごと: 15 部局中 12 部局が1.0%減に未達 (全体: 令和4年度比 2.79%増)	

電気使用量については、「令和4年度比で部局ごとに1.0%の削減」を目標としておりましたが、15 部局中 12 部局が1.0%減に未達、全体としても令和4年度比で2.79%の増加となり、目標を達成することは出来ませんでした。

目標が達成出来なかった要因の一つとして、ここ数年での公共施設の空調設備の増設又は増強と、気温の上昇による空調設備の稼働率の上昇が考えられます。

実際に、令和4年度と令和5年度の同月を比較^{※1}すると、7月は1.3℃、8月は1.5℃、9月は2.2℃も平均気温が上昇しています。 ※1 気象庁HP神奈川県(横浜)

本市では、「再エネ化と省エネ化を図った上で市民サービスに必要なエネルギーは使っていく」との方針を示しており、省エネルギー化との両立が課題です。

令和5年4月1日に改正された省エネ法では、再エネなどの非化石エネルギーも含め、省エネルギー化を図ることが義務付けられ、CO₂の排出が無い電力の使用であっても、年あたり1%の削減に努めていく必要があります。

今後、本市では、「市民サービスのさらなる向上」と「エネルギー使用量のさらなる削減」という、トレードオフの関係になり得る2つの課題を同時に解決していく必要があり、具体策としては高効率設備等への計画的な更新が考えられます。

電気使用量の推移(単位:kWh)

(kWh)	令和4年度	令和5年度	削減率
上半期	18,452,308	19,327,968	
下半期	16,947,118	17,262,602	-2.79 %
上・下合計	35,399,426	36,590,570	
防犯街路灯(年間)	307,076	309,010	
道路照明灯(年間)	191,967	※2	
合計	35,898,469	36,899,580	

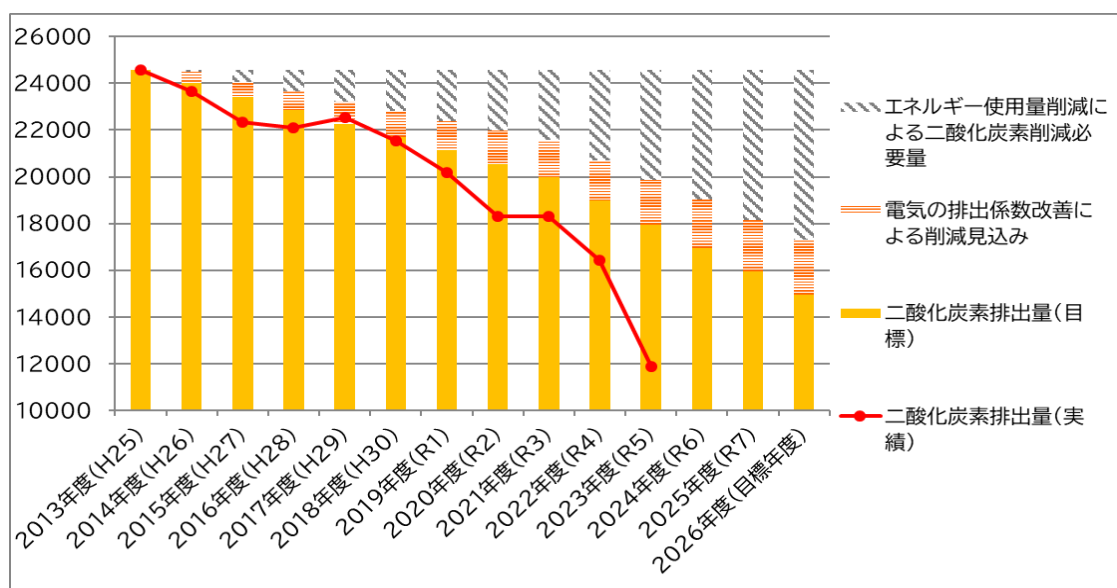
※2 道路照明灯(令和5年度分)は、「上半期」「下半期」欄に統合

(2) エネルギーの使用に伴う二酸化炭素排出量の削減

この目標は、中長期的に目標管理をしながら、地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(中間見直し)の目標達成(2026年度)に向けて取り組んでいくことになります。今回の中間見直しを受け、電力の仕様に伴い発生する二酸化炭素排出量の算出に必要な「排出係数」を実際の電源構成から算出される「基礎排出係数」から、実際の市場評価から算出される「調整後排出係数」に変更をいたしました。

次のグラフは、地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(中間見直し)の目標値と結果を示したものです。

エネルギーの使用に伴う CO2 排出量(令和6年6月時点の最新値)



削減量のうち、エネルギー使用量削減(省エネ)により二酸化炭素排出量の削減を見込んでいる部分は、上記グラフの灰色部分です。また、市役所で使用するエネルギーの大部分を占める「電力」の調整後排出係数が下がること(再エネ導入等)により、排出する二酸化炭素の削減を見込んでいる部分は、上記グラフのオレンジ色部分です。

二酸化炭素排出量の実績が、棒グラフの黄色部分の上端より赤色の折れ線グラフの点の部分が低く(少なく)推移していれば、地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(中間見直し)の目標を順調に達成しているといえます。

前述のとおり、令和5年度は、本市の高圧受電施設の大半が「かながわ再エネオークション」の仕組みを活用し、再生可能エネルギー(実質再エネ)の導入を行いました。これにより、電気使用量の削減は達成出来なかったものの、業務部門における二酸化炭素排出量は大きく削減することが出来ました。

今後は、2030年のカーボンハーフに向け、再エネ化が困難である電気以外のエネルギー(ガス等)由来のCO₂排出量縮減を進めていく必要があります。

(3)エコドライブの推進

目標	燃費実績を令和4年度より向上又は令和4年度水準を維持	目標達成 ○
結果	ガソリン:0.64km/ℓの燃費低下・・・△ 軽油:0.27km/ℓの燃費向上・・・○ 全体としては令和4年度水準を概ね達成	

燃料別ですと、ガソリンは燃費実績が低下し、ディーゼルは燃費実績がやや向上しました。車両の燃費実績については、庁用車の定期的な点検を行うとともに、不要なアイドリングストップの禁止、急加減速の抑制、不要荷物の積載をやめるなど、エコドライブを徹底することなどで今後も燃費に努めて参ります。

また、代替可能なガソリン車やディーゼル車は電動車への計画的な更新を行って参ります。

燃費の推移

車両燃費

	令和4年度		令和5年度	
	ガソリン	軽油	ガソリン	軽油
走行距離(km)	585,241	970,887	601,683	955,581
給油量(ℓ)	80,204	215,848	90,351	200,417
燃費(km/ℓ)	7.30	4.50	6.66	4.77

向上幅	
ガソリン	軽油
▲ 0.64 km/ℓ	0.27 km/ℓ